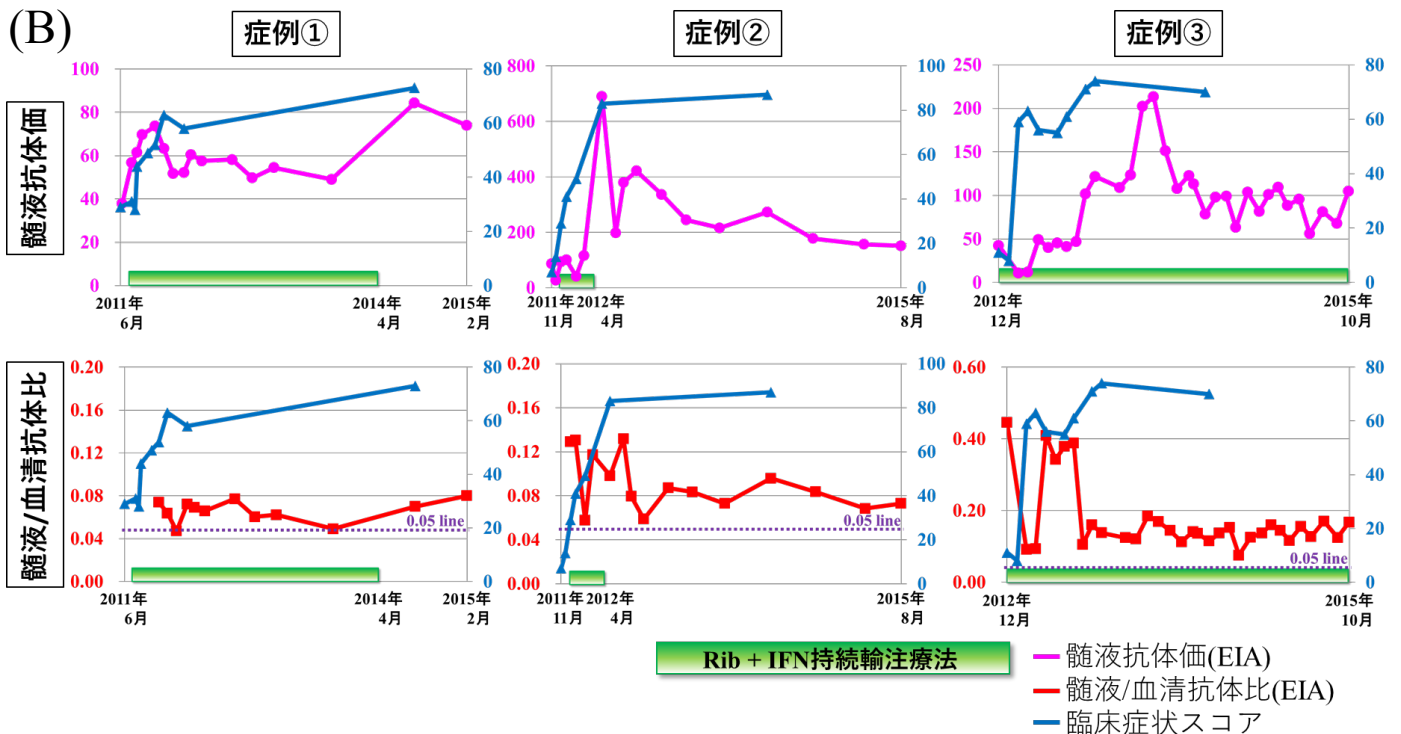


亜急性硬化性全脳炎 (SSPE)3例における 髄液/血清 麻疹抗体比と臨床症状スコアの相関について (診療ガイドラインの策定・改訂のための検討)

研究分担者: 福島県立医科大学小児科学講座 細矢 光亮

(A)	検体数	中央値	四分位範囲
症例①	12	0.068	0.061-0.074
症例②	15	0.084	0.073-0.117
症例③	32	0.140	0.121-0.169
Total	59	0.116	0.074-0.144



解 説

1. SSPEは、麻疹ウイルス変異株の持続感染による遅発性ウイルス感染症である。診断において「髄液中麻疹特異抗体価の上昇」は診断的意義が高いとされるが、明確な基準はなく、治療効果判定に利用可能な指標も確立されていない。一方、単純ヘルペス脳炎では、診療ガイドラインに髄液/血清抗体比 $\geq 1/20(=0.05)$ という基準がある。この基準がSSPEにおいても適用できるか検討した。
2. 当科で治療中のSSPE患者3名の血清・髄液を用い酵素免疫法(EIA法)で麻疹抗体価を測定し、髄液/血清抗体比を計算した(A)。臨床症状スコアの推移を比較し、病勢の評価を検証した(B)。
3. 59検体中ほぼ全ての検体(57検体; 96.6%)で髄液/血清抗体比は0.05以上だった(中央値 0.116, 四分位範囲 0.074-0.144)。
4. 髄液抗体価と比較して、髄液/血清抗体比は、病勢が急激に進行する急性期に高値となる傾向がみられた。髄液/血清抗体比は、3症例とも病勢が進行して症状が固定された慢性期には、急性期と比べて低値で概ね一定の数値(0.1~0.2程度)を維持していた。1症例において、髄液/血清抗体比は、発症早期にみられた臨床症状の軽快・増悪とほぼ一致した挙動を示した。